

# ヒメアマツバメ物語

群馬野外生物学会講演会

2025.5.19

谷畑 藤男

○2024年10月12日、ヒメアマツバメが高崎市の白衣観音の鼻孔に出入り。観音様の鼻孔内及び額の凹地に巣を発見。（図1・2・3）

○ヒメアマツバメの概要

アマツバメ目アマツバメ科ヒメアマツバメ *Apus affinis*

L13cm W28cm

東南アジアに留鳥として生息（日本に生息するようになったのは最近のこと）

空中で浮遊昆虫を捕食。巣はイワツバメやコシアカツバメの古巣利用。埒にも使用。巣の入り口に羽毛を張り付ける。（図4・5・6・7・8）

## ○分布の拡大（北上）

・1967年に静岡市七間町の松竹映画館で初めて繁殖が確認された（日本初）。251羽の埒入りが数えられた。コシアカツバメの巣を利用した。

静岡市の都市鳥（朝倉俊治） 全国主要都市の都市鳥1990 都市鳥研究会編

・県内では、1992.01.01に高崎市で4羽観察された（谷畑野の鳥189）が最初の記録である。その後高崎市双葉町の新幹線高架下でイワツバメの巣を利用した繁殖が確認された。

群馬県鳥類目録2012 日本野鳥の会群馬

・97年2月8日、高崎市の自宅上空を飛ぶ小型のアマツバメ数羽を観察。ヒメアマツバメの飛来記録と内陸への飛来理由を考察。

群馬の自然No108（1998）「冬の雨燕」（谷畑藤男）

- ・2004年1月21日、高崎市内でヒメアマツバメ1羽が落鳥した。1月24日に榛東村野鳥病院で死体を観察スケッチ。高崎市双葉町の新幹線高架下のコロニーの観察。
- 2003年12月29日、静岡市七間町の松竹映画館2階テラスの日本初のヒメアマツバメ繁殖地を見学。早朝、巣からヒメアマツバメが飛び出した。群馬の自然No132 (2004) 「ヒメアマツバメ」 (谷畑藤男)

### ○双葉町の観察でわかったこと

- ・イワツバメの壺巣を集合住宅にリホーム（羽毛を張り付ける・大量の白い糞）
- ・100羽以上が生息繁殖、埒として利用。行動範囲は広い。夕方（日没前）戻って来る。

## ○新たな疑問

- ・ヒメアマツバメは自力でも巣を作るか？  
壁面に造巣するヒメアマツバメ（図9・10・11・12・13・14）
- ・観音様鼻孔の巣をよく見ると自力？（図15・16）

## ○まとめ

ヒメアマツバメは個体数の増加や分布の拡大が見られる。温暖化に伴い冬季の餌確保が理由と思われる。また都市環境を利用し、イワツバメ古巣の利用から自力で巣作りを試みる個体も見られる。今後の動向にも注目したい

# 図1 白衣観音慈悲のみて



図2 右の鼻孔に注目



図3 ヒメアマツバメ飛び出す



図4 イワツバメの巣



図5 イワツバメ



図6 ヒメアマツバメのリホーム



図7 枯草を張り付ける



図8 羽毛を張り付ける



図9 壁面天井の隅で交尾



図10 羽毛を円形に張り付ける



図11 羽毛を運ぶ



図12 円形になった



図13 ハンモック状になった



図14 白い糞（埤使用？）



図15 もう一度鼻孔に注目



図16 白衣観音 耳鼻（じび）もみて

